

會社側ハ其ノ後漸次入場者増加シテ九十六名ニ及ビ也。争議
困ニ参加セカリシ従業員六名並臨時傭人ヲ以テ賠償ニ作業ヲ
継続シ居リ特種ノ対策ナシ

六 争議困側

争議困側ニアリテハ事業主側ヲ脅威セシメテ解決ヲ有利ナラ
シメテト策シ反復敢行シタル不法行為カ反テ事業主ヲ激化セ
シメテ争議困側ニ不利ヲ醸シツ、アリタル事例ニ鑑ミ引続キ懇
同盟本部ニ數十名内外宛羅城ニ會社附近ノ警備及裏切職工ノ
家庭訪問等ヲ繰リ返ヘセル外不穩ノ行動ニ出テ又何シテ情氣
葛々タルモノアリ 困側ハ幹部ノ復讐激働ニテ近テ有利解
決スルモノト信シ之レヲ期待シテ行動シツ、アリ
右及中(通)報候也

5. 7. 21

1453

券秋第二三一。聯

昭和五年七月十九日

善視總監丸山鶴吉

内務大臣安達謙藏殿

社會局長官殿

神奈川県知事山縣治郎殿

合資會社東京鐵骨橋梁製作所ノ

勞働争議ニ関スル件 第十八報

要旨

首領調停謀ニ終テ調停ノ開始シタル為ニ争議困側ハ其別産所在地(大磯町)ニ
主力ヲ注テ多数各地ニ徹祖セル等、暴ノ吸收ニ障害アリトシ各地所長外一名ハ二田君及會社ニ訪問セリ

標記勞働争議ニ関スル其後ノ状況左記ノ通

記

一 會社側